

2030年目標の達成項目及び評価指標(案)について

※ ★は実績値の把握方法について検討が必要な指標

2050年目標	2030年目標	達成項目	達成項目の評価指標(候補)
【生物多様性の持続的な利用】 ・自然のバランスを保ちつつ、生物資源の持続的な利用を可能にする。 ・地球温暖化への適応や防災・減災等の様々な社会的課題に対し、自然が持つ機能を十分に活用する。	【目標1】 京都らしさを支える生物多様性の持続的な利用を可能にする。	(1)京都の文化を支える生物資源を持続的に利用する。	京都産チマキザサの利用量★
			ハゼ実生苗の育成本数
			京の旬野菜の供給量
			アユの遡上数
			市内産木材「みやこ杉木」の流通量
		(2)自然が持つ多様な機能を導入し、レジリエンスの向上を図る。	指標種(市街地)の生息報告数
			指標種(河川)の生息報告数
			緑被率
			市民一人当たりの公園面積
			雨庭の設置数
		(3)環境に配慮し、生物多様性を活用した観光を促進する。	多自然河川の整備地点数
			エコツーリズムの実施実績★
【生物多様性の保全・回復】 ・生態系・種・遺伝子の多様性の損失を食い止める。 ・世界の平均気温の上昇を1.5℃以下に抑え、地球温暖化による生物多様性への影響をできるだけ回避する。	【目標2】 生息・生育地と種の多様性を保全・回復する。	(1)重要な生息・生育地の環境を改善する。	重点保全地域のうち保全活動を実施している地点数★
		(2)里地里山の生物多様性の劣化を食い止め、回復を図る。	指標種(里地里山)の生息報告数
			地目別面積(田,畑),生産緑地
			エコファーマー認定者数
			森林整備面積(植林,保育,間伐)★
			シカの捕獲数
		(3)種の絶滅を食い止める。	「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト」参加団体数
			「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト」保全種数
		(4)侵略的外来種の侵入・拡大を抑制し、生態系や人の健康、農林業への被害を防止する。	京都市に定着している特定外来生物への対処率★ (防除活動を実施している特定外来生物/京都市に定着している特定外来生物)
		(5)河川におけるプラスチックごみによる汚染を大幅に削減する。	プラスチック代替品の普及率★
		(6)地球温暖化を緩和する。	温室効果ガス排出量
【ライフスタイルの転換】 ・一人ひとりが自然を身近に感じ、生物多様性の問題を「自分ごと」として認識する。 ・一人ひとりが生物多様性の持続的な利用と保全・回復のために行動・選択している。	【目標3】 生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換を図る。	(1)一人ひとりが自然を身近に感じ、暮らしている。 (2)一人ひとりが生物多様性とのつながりを認識している。 (3)一人ひとりが生物多様性のために行動している。	京の生きものミュージアムに掲載のイベント数
			自然を身近に感じている人の割合(アンケート)
			生物多様性とのつながりを認識している人の割合(アンケート)
			生物多様性の持続的な利用と保全・再生のための行動を行っている人の割合(アンケート)
			4園館、環境学習施設等における生物多様性関連イベント数
			環境学習施設、自然体験施設の来場者数
		(4)生物多様性に配慮した消費行動が広がっている。	生物多様性保全のための認証ラベルの認知度(アンケート)
			生物多様性に配慮した製品を優先的に購入している人の割合(アンケート)
			生物多様性に配慮した活動を行っている事業者数★
			「京都市公共建築物低炭素仕様」に基づき屋上緑化や壁面緑化、敷地内緑化を実施している施設数★
【社会変革のための仕組み】 ・社会経済活動において、生物多様性の持続的な利用と保全・回復が組み込まれている。 ・各主体がそれぞれの立場で生物多様性保全の担い手として活躍している。	【目標4】 社会変革に向けた仕組みを構築する。	(2)生物多様性保全のための活動を支援する。	生物保全活動登録制度登録者数
			生物多様性保全活動団体数
		(3)生物多様性に関する情報の集約・発信力を強化する。	ホームページのコンテンツ更新回数
			SNSのフォロワー数
		(4)生物多様性の現状を把握するための知見を集積する。	京の生きもの生息調査報告数
			市内におけるモニタリング地点数★